

# 持続可能な公共交通の実現に向けて

令和5年1月

与謝野町企画財政課

# 前回会議(R4.6.21)の振り返り

## 現状整理

### 社会

**人口減少と少子化・超高齢化社会の到来**

### 住民

**自動車による移動が多い  
公共交通の利便性が低いという声**

### 交通事業者

**運転士不足やコロナ禍による厳しい経営環境**

### 行政

**公共交通を支えるための公的財政負担の増**

## 今後の方向性（案）

### 取組 1

需要に応じた  
便利で快適な



交通サービスの“実現”

### 取組 2

新たな需要の“開拓”

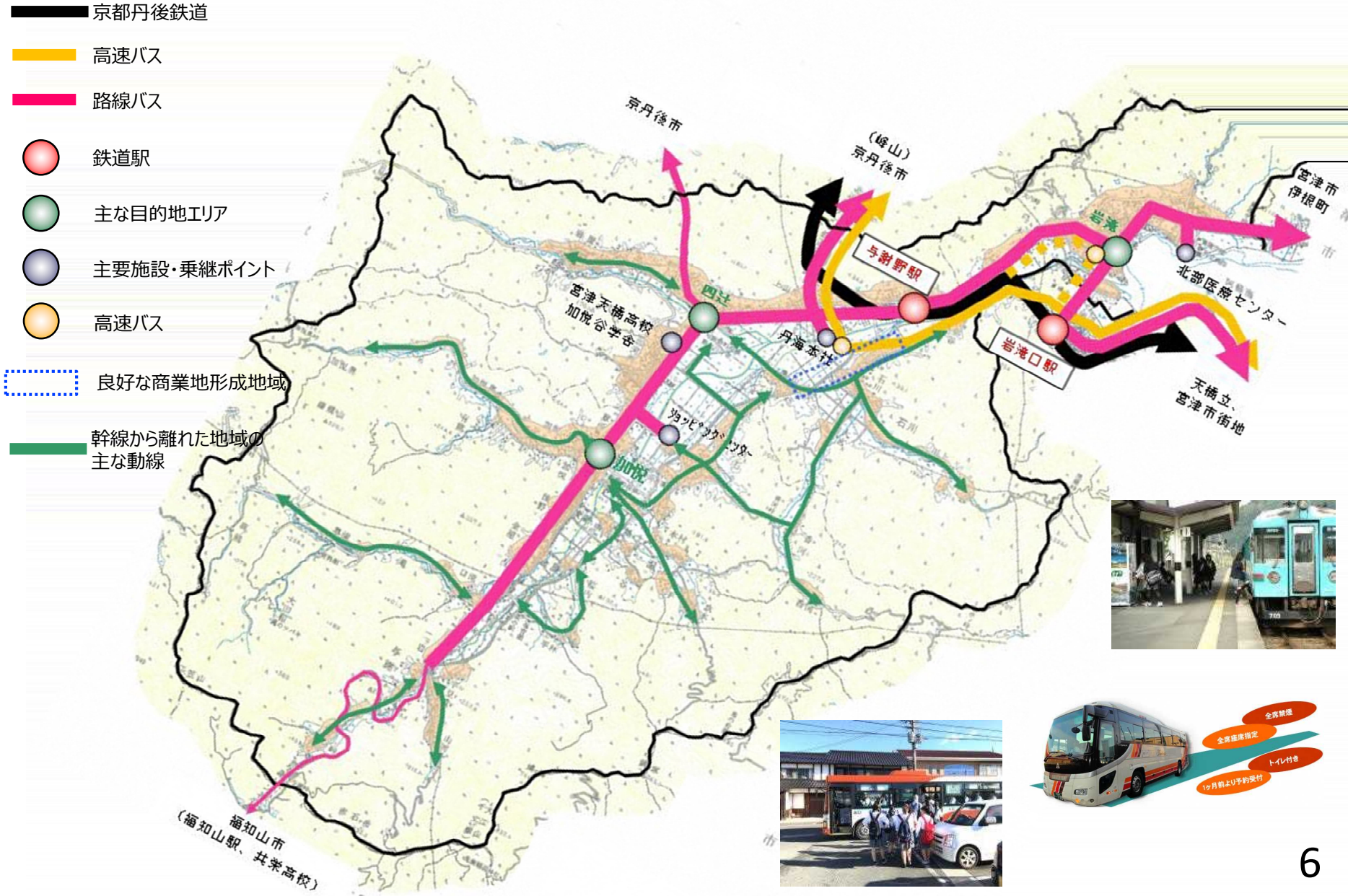


**持続可能な公共交通**

## 主な意見

- 快適なバス待ち環境の整備
- 交通モードの役割分担、棲み分けをどうするか
- 福祉のサービス、スクールバスのサービスなど一定の傾向が似通る方々の需要を束ねていく、効率化していくことが必要
- いかに関利用してもらうか、車以外の選択肢を示すためにも情報提供が一番重要
- 環境配慮、路線の輸送量向上のために貨客混載を一部路線で導入。

# 【対応案】 幹線から離れた地域の小さな需要を“デマンド交通”でカバー 幹線へ接続する交通体系の構築を目指す



## 前回のまとめ（会長総括）

- 幹線から離れた地域の小さな需要をカバーし、幹線に接続する公共交通体系を目指していくということについては、合意形成ができた。
- 地域別、そして集団別でのニーズをいかに束ねていくのか、その公共交通の担い手をどこに求めていくのかといった、議論ということが必要。

# 本日のテーマ

## 取組 1

需要に応じた  
便利で快適な

> 交通サービスの“実現”

➡ どのような姿？

## 取組 2

新たな需要の“開拓”

➡ 新たな需要とは？



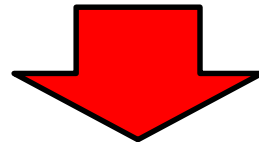
## 前回（R4.6.21）会議後の動き

### 交通事業者の課題

- 安全性を担保できる交通事業者（緑ナンバー）で、町内の交通を担っていただくことが本来の目指すべき交通体系
- 近年は交通事業者の運転士の確保が課題であり、中長期的な対策が重要となっている。

### 地域の動き

- 岩屋でのボランティア輸送（NPO団体／H29～）
- 地域内移動の課題意識の芽生え



**交通事業者だけでなく、地域住民、関係団体などと協力  
して移動手段を確保することも模索**

# 「便利で快適な」の例

- 可能な限り「ドアtoドア」（自宅付近→目的地）
- 可能な限り利用時間に制約がない
- 乗継回数が少ない（目的地まで一本で行ける）
- 交通結節点（乗継拠点）の待機時間が短い
- 交通結節点（乗継拠点）待合環境が快適
- 料金体系が分かりやすい
- ITを活用した配車予約・決済ができる
- 配車予約の方法が簡単 など

# 様々な移動手段

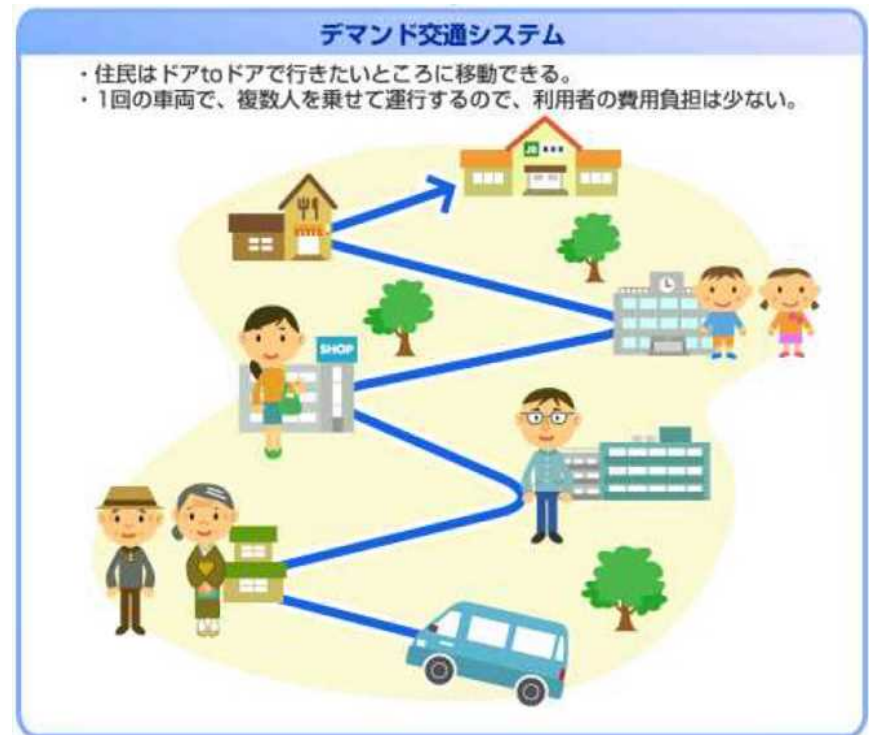
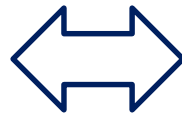
- ① 鉄道（京都丹後鉄道）
- ② 高速バス（丹後海陸交通）
- ③ 幹線系統路線バス（丹後海陸交通）
- ④ **フィーダー系統＝バスとタクシーの中間的な乗物**  
↑ 町営バスから置き換え
- ⑤ タクシー（日本交通）
- ⑥ 福祉有償運送（与謝野町社会福祉協議会）

**互いに補完し合う交通体系を構築し、  
持続性、利便性の向上を目指す**

**与謝野町の主な目的地と  
公共交通による地域内移動イメージ図  
(別紙のとおり)**

## (参考) デマンド交通

デマンド交通とは、通常の路線バスのような定時定路線の運行ではなく、利用者がある場合にのみバスまたはタクシーを走らせる、すなわち“需要 (Demand)”に応じて経路や運行時間を変えて車両を運行する仕組みのことです。



# フィーダー系統

**複数の運行主体**による  
交通体系の構築を目指す



『交通事業者（タクシー） +  
地域住民（自家用有償旅客運送）』

# 本日のテーマ

## 取組 1

需要に応じた  
便利で快適な

> 交通サービスの“実現”

➡ どのような姿？

## 取組 2

新たな需要の“開拓”

➡ 新たな需要とは？

# 新たな需要とは

- ・**子どもの塾送迎**
- ・**地域コミュニティの中での移動**  
(地域行事への参加、施設までの移動など)
- ・**潜在的なニーズ**  
(これまで公共交通を使ってこられなかった高齢者など)
- ・**企業の送迎利用**
- ・**貨客混載**
- ・**役場職員の公用利用 など**